

海外生活 レポート 61



活動の様子。設備が充実しており、プロジェクターも使える。

えび な たく や
鰐名 拓也さん

川崎市出身。2024年5月から2年間、JICA海外協力隊としてソロモン諸島に派遣される。前職の土木設計の経験から、図面作成用ソフトの指導をメインに活動している。趣味は読書、ゲーム、料理のインドア派。ソロモンではマリンアクティビティに挑戦しようと思っていたが、海洋恐怖症だとわかった。釣りは楽しい。

ソロモン諸島



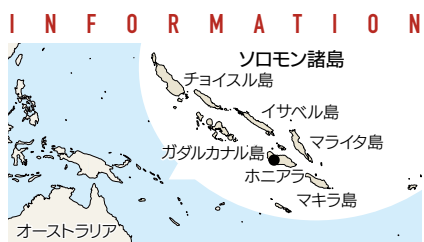
学校の同僚とのピクニックで綱引きをしている様子。細かい石が多くて、裸足だととても痛い。



大通りから一つ入った道。雨の後は大きな水たまりができる。



学校を出てすぐの大通りの様子。大きな建物があり、アスファルトもしっかり敷かれている。この道路が首都ホニアラを横断している。



S O L O M O N I S L A N D S		
ソロモン諸島		
面積	28,900km ²	首都
人口	724,237人	公用語
		英語

ソロモンでのPC授業

私は現在、ソロモン諸島という国でJICA海外協力隊として活動しています。日本の専門学校に当たる教育機関で、パソコンの授業を担当しています。20代前半の学生が中心ですが、中にはパソコンに触るのが初めてという学生もあり、マウスやキーボードの使い方、起動の仕方から指導することもあります。

日々授業をする中で、学習上の前提が大きく違うことを実感しています。

直接指導しているのはパソコンのソフトの使い方ですが、そのソフトを使いこなすためには、本人の計算能力も重要です。最初の頃は特に、授業内容を理解してもらえていないなと感じる場面が多くありました。教育分野での経験がないことと語学力不足が原因だと考えていましたが、ある時学生と話していて、30÷29の計算に電卓を使い始めた時に合点がいました。もちろん全員がそうではありませんが、多くのソロモン人は計算へのハードルが非常に高いようです。それに気づいてからは、コンピューターの技術だけでなく、生活で役立つ計算手法も習得してもらえるように授業を考えています。



学生たちが座学を受ける校舎。敷地内には他に、体育館や教会、各学科の実習室などの施設も備えている。

また、扱っている分野の性質上、課題をデータで提出してもらうことがよくあります。このとき、対策をしないと、多くの学生は友達のデータをコピーして、そのまま提出してしまいます。他の学校で活動する隊員の話聞いても、カンニングは当たり前に行われているようです。今はそれぞれ違う答えになるように出題を工夫していますが、指導の加減には苦労しています。突然やってきた日本人のせいで留年になるのは可哀想だけど、今のままでは勉強にならない。こうしたバランスを取りつつ、わからないことは気軽に聞いてもらえるような関係性を築くのはとても難しいです。

ソロモンと日本との関わり

多くの人にとって聞き馴染みのない国だと思いますが、実は日本とソロモン



ホニアラ空港を出てすぐに見られる旧日本軍の機銃。日本語の刻印も確認できる。

は、第二次世界大戦での大きな接点があります。ソロモンの現在の首都があるガダルカナル島は、旧日本軍とアメリカ軍の激戦が繰り広げられ、戦争の転換点となった戦場でした。今でも戦争の遺構を数多く見ることができ、観光資源としての役割も期待されています。一方で、小学校の敷地から、不発弾が出たという話も聞いたことがあります。戦争の跡がいまだに色濃く残る場所です。



日本の中古車が多く活躍している。車内表示やカーナビが日本語のまま使われていることも。バスは区間によるが、基本は3〜5SBD(約60〜100円)

日本でのソロモン諸島の知名度は高くありませんが、ソロモンの人たちは日本のことをよく知っています。アニメや工業製品の質の高さ、昔お世話になったボランティアの話を聞くことが多いです。日本人とわかると「おはよう」「ありがとうございます」と日本語で声をかけてくれることもあります。日本に対して、とても好意的です。先人たちが積み上げた信頼に、私も少しでも寄与したいと思いながら日々活動しています。

ソロモンの存在が多くの人に伝わりと嬉しいです。



現地でよく食べられているフィッシュ&チップス。20SBD(約400円)くらい。魚の味が強く、衣にもしっかり味付けされている。チップスはキャッサバ芋。



首都ホニアラで一番大きなマーケット。大きな魚や見たことがない果物も売られている。